

## 会 議 議 事 録

1 会議名	平成26年度長岡市市民協働推進審議会
2 開催日時	平成27年2月23日（月曜日） 午後1時30分から午後3時30分まで
3 開催場所	シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3階 第1協働ルーム
4 出席者名	(委員) 恩田委員 上村委員 河村委員 澤田委員 樋口委員 山村委員 渡辺委員 綿貫委員  (事務局) 市民協働推進室 山崎室長 柳島市民交流・アオーレ調整担当課長 小村市民協働担当課長 上村アオーレ調整担当課長補佐 桜井市民交流担当係長 五十嵐アオーレ調整担当係長 目黒市民協働担当係長
5 欠席者名	佐竹委員 田中委員
6 議題	(1) 「長岡の市民協働の特長」について (2) 長岡市の市民協働推進の現状と今後の課題について (3) 2つのNPO法人を軸とした市民協働の推進について
7 審議結果の概要	議題(1)から(3)について 事務局より説明があり、委員による意見交換が行われた。
8 審議の内容	<p>1 開会</p> <p>・市民協働推進室長よりあいさつ</p> <p>中越大震災の際に、市民の皆さんと行政が一緒になって復旧復興を成し遂げてきたことが、長岡の市民協働推進の大きなポイントだと考えている。</p> <p>その後、アオーレがオープンし、市民協働条例が制定されたことをきっかけに流れが変わってきたと実感しているが、その半面、この3年間でさまざまな課題も鮮明になってきた。</p>

	<p>今日は、この3年で見えてきた課題に対して、現状認識や今後の方向性などについて委員の皆さまから忌たんのないご意見を伺いたい。</p>
事務局	<p>2 議題</p> <p>ここからの議事については、樋口会長に進行をお願いします。</p>
会長	<p>それでは、事務局から議題1について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(1) 「長岡の市民協働の特長」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1に基づいて、事務局より説明</li> <li>・意見交換（以下、発言の要旨）</li> </ul>
委員	<p>市政100周年の際にいろいろな市民公募の事業があつて面白かつた。市民協働推進のきっかけに加えてもいいのではないか。</p> <p>地域復興支援員は、震災より少し後にできたものなので、時間軸の整理をお願いしたい。</p> <p>市民協働の長岡モデルの例示について。</p> <p>市民ニーズを満たすという社会的なことではなく、例えば演芸や文学とか少し違った面からアプローチしている団体も入っていると、多様性が見えていいと思う。</p>
委員	<p>長岡の市民協働の特長は「市民力」と「地域力」。さらに言うと、それを支える人づくり。</p> <p>長岡モデルの事例は、誰が中心になってやっているかみんな顔が見える。そういう人を多く作って行って、その人たちの思いをもっと育てる、支えるということだと思う。</p>
委員	<p>市民力と地域力がタッグを組んで課題に臨む。それを下支えするのが行政の役目だと思う。</p> <p>行政の立場というのは、あくまで下支えであり、教育とか指導を行わない、深入りをしない構図が望ましいと考える。</p>
委員	<p>「しなやかな市民力」はもう少し違う表現にできないか。</p>
委員	<p>資料1について。</p> <p>他自治体の方々に大いに宣伝して長岡の市民協働をPRしていただきたい。</p>

	<p>歴史の流れから長岡の市民協働に入っているが、「互尊独尊」の精神については触れなくていいのか。</p> <p>行政の役割は、市民が元気よくいろんな動きを起こしたり、伸ばしたりしていくことに対する下支えだという意味づけが資料から読み取れるといい。「環境づくり」とか「仕掛けづくり」とか市民が気持ちよくチャレンジできる「何か」を作るというところ出してほしい。</p> <p>『しなやかな市民力』と『強く結びついた地域力』…市民力が「しなやかな」だけでいいのか。それから「強く結びついた地域力」はインパクトがない。例えば「たくましい地域力」とかそんなニュアンスがほしい。</p> <p>「市民力を活かした市民協働の『長岡モデル』」…「市民力を活かした…」だけでは物足りない。ポテンシャルとして市民のこういう力があるということを示すだけでなく、人づくりという視点から、例えば「市民力を活かし育む市民協働」と入るだけで随分違うと思う。</p> <p>長岡の市民協働を表すキーワードとしては、「出る杭を伸ばす」。地震だとか戦争だとか、出る杭を叩いている場合じゃない状況にあって、むしろ出る杭を認めて伸ばしてあげることが長岡の市民協働。</p>
委員	<p>市民に最適な職場を提供する、つまり職業人生の目標を達成できるような機会を提供するのは、企業力だと思う。産業界や企業と市民との関わりを定義して、市民協働の要素の一つに入れていただきたい。</p>
委員	<p>合併地域では、「協働」というものがまだ理解されていない実感があり、この現状をどうやって次の段階に持っていくかという課題が盛り込まれているべき。</p> <p>長年続いているイベントの場合、当日はうまくいっていても、本当に大変なのは事前の準備。この部分を市民協働の形に持っていかねければならない。やはりどっぷり入らないと、なかなかわからない。</p> <p>昨年の会議でも、団体の支援は自立のための支援という話があった。自立した先の市民協働…自立した団体が新しい団体を拾い上げて、そこにどっぷり入って長岡の市民活動を作っていく。それが地方創生につながるのではないか。活動を生み出した後のビジョンを改めて一緒に見直すことが必要だと思う。</p>
委員	<p>団体が自立し活動していく中で、企業側の支援はあるべきだし、実際、実績を挙げている事業には、企業のバックアップが少なからずある。企業のバックアップという特長をうまく表してほしい。</p>

<p>会長</p>	<p>歴史を踏まえた上で、協働の精神が語られているが、その精神の中身がどんなもので、市民協働にどういう形で関わっていて必要なのか。</p> <p>活動していて、「自分が最初に利益を得るようなやり方では誰も関わってこない」と言われた。「身銭を切って、忙しい時間を割いて活動している」というところで、地域の方と信頼が結ばれて活動を継続できている部分がある。具体的にどのような精神性が長岡にあり、市民協働の特長として表れているかという部分も入れてほしい。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、事務局から議題2について説明をお願いします</p>
<p>事務局</p>	<p>(2) 長岡市の市民協働推進の現状と今後の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2、3-①、3-②に基づいて、事務局より説明</li> <li>・意見交換（以下、発言の要旨）</li> </ul>
<p>委員</p>	<p>次のステージでは、企業の関わり方をうまく入れ込んでいかなければならないと感じた。企業の公益性を担っているという部分に関して、上手に協働の中に入れていいのではないかと。</p> <p>本気になっていない人をどうやって本気にさせるか、これは永遠の課題。出る杭はほっといて、出そうな杭を何とかひっぱり出すというのが次のステージのテーマになってくるだろう。</p> <p>地域力を上げるという観点でいうと、市民力や地域力のいい取組みが波及していくということも次の目標設定として大事だと思う。</p> <p>先走ってしまうが、資料4について。</p> <p>市民が問題と思っていること、自発的に取り組んでいることに、政策課題がたくさん含まれている。それを行政に反映させる形にしてほしい。市民の声として、政策課題・行政課題が入ってくるチャンネルを持っていることを示したほうがいい。</p> <p>「中心市街地の賑わいや回遊性の確保」という課題について。商店街側にも攻めの姿勢が必要。こういうことにチャレンジしたい、だからインフラ作るという話になると、市民協働の議論じゃないという気がする。</p>
<p>委員</p>	<p>補助金の内訳について。各地域のどのあたりの人が長岡市に関わってきたのかが具体的にわかるといい。</p>

事務局	さきほど、ご意見が出ましたので、先に資料4についてご説明したい。
会長	みなさん、よろしいか。
委員	(異議なし)
事務局	<p>さきほどの委員からのご意見について。行政に反映させる形にということでしたが、言葉では書いてありませんが、図の中の握手がそれを意味しています。</p> <p>市民協働を説明する時には、市民活動団体が自由であることが第一だと考えます。それからさまざまな地域・社会課題の特性をどう組み合わせ取組んでいくか、そして、市民活動団体がいずれは自立する方向にいくという視点も持ってこの図を整理しました。</p> <p>以下、この図の説明をいたします。</p> <p>(3) 2つのNPO 法人を軸とした市民協働の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料4に基づいて、事務局より説明</li> <li>・意見交換 (以下、発言の要旨)</li> </ul>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>さきほどの議題(2)も合わせてご意見をお願いします。</p>
委員	<p>いきいき活動する市民が多いと、その環境整備は、「下支え」になる。それを下支えだけではなく、市民から行政へ、市民から直接市民へ、市民から行政を通して市民へということもあるかもしれない。</p> <p>行政がすぐに手を出せないときに、市民がトライアル的に課題に取り組むことがよくある。その活動が行き詰まった時に、行政が下支えするのではなく、行政自身のテーマにしたり、逆に市民の側に返すということもあると思う。社会全体の問題なので、行政が効率的にやれるものはやればいいが、市民側に返すということもすごく大事。</p> <p>今欠けている仕掛けは、トライアル的にやった活動の行き先。例えば、資金調達の問題では、税の再配分など具体例をあげながら行政・市民みんなで議論することで次の課題につながるのではないか。</p> <p>行政の縦割りは民間やNPOが埋めるのではなく、行政がのりしろを大きく出して重なる部分をいかに多く作るかという問題。市は、どこの仕事かというのをはっきり決めないと、手を出さないということ</p>

委員	<p>がありがち。手を出す人間がいたときに、組織として解決できる仕組みを作っていくのが行政としての次のステップだと思う。</p> <p>資料2について。</p> <p>アオーレの賑わいが中心市街地の賑わいに寄与するというのは、市民交流事業の課題とは関係がないのではないかな。</p> <p>アオーレで独立してやっている事業同士が、期せずしてつながったとか、アオーレがそういう働きかけの場になることが大切で、そのことをみんなが認識することが大切。</p> <p>資料4について。</p> <p>趣味とか仲間内だけの活動に対しては、活動の多様性などを担保するために、最初の下支えはする。で、仲間をたくさん集めて活動を続けてもらう。そういう意味の自立を促せばいい。</p> <p>ただ、社会に対する成果については、いろんな解釈をしたほうがいい。踊り好きな人が、仲間内で楽しむだけじゃなく、高齢者施設で踊ったりすると、地域福祉の活動ということになる。その部分に対して投資をするということと、楽しみに対する最初の下支えということは、あり様が違うので、全部一律に自立を求めるのは違う。自立させないで行政と一緒にやることも大切。</p>
委員	<p>「アオーレをきっかけに市民力が覚醒」というとおり、アオーレが市民の楽しめる場として定着しているという感想を持っている。</p> <p>中心市街地の賑わいと回遊性の確保については、商店街も全面的に協力しているが、アイデアとか市民力を活かした新しい方向性については模索しているところ。ながおか未来創造ネットワークも一体となってまちづくりを進めるというスタンスであれば、この資料に入れて然るべきだ。</p> <p>最初作った時のルールは再整備しなければならないと思うが、協働センターへ行けばなんとかなるという安心感が市民意識の中に出てくるのは、非常に強い点ではないかな。</p>
委員	<p>資料2～3について。</p> <p>イベントや相談件数、補助制度等、行った結果がどうだったかを載せてほしい。当団体で事業を行った後に、アンケートを行うと15%ぐらいクレームだが、このクレームが今後の事業の課題になっていく。</p> <p>県と市という行政同士のつながりというのも今後の課題にしていくと、活動の幅が広がるのではないかな。</p>

委員	<p>市民協働を進めていくなかで、一番大事なのは情報をどうやって共有するか。いかに情報を共有するかという概念図を考えていただきたい。その概念図＝「まちづくり」＝「協働」になるのではないか。</p> <p>協働に対しては、市民自身も考えていかなければならない。「協働っていうやり方がいいよね」という方向に持っていくことが必要だ。</p>
委員	<p>イベントに何人来たという評価をされるよりも、次にどれだけの人が関わってくれるようになったかというのが大きな成果。</p> <p>補助金を出すときにも、その活動を通じて関わってくれる人がどれくらい増えるかということに対して、補助金が支えているという構図を持っていたほうがいいし、みんなで共有しておいたほうがいい。</p>
委員	<p>イベントをやることによって、地域の人がどういう接点を持ったか、あるいは関わった人がどう変わったか、そういうことが一番大事。ある視点から見れば、イベントに1万2千人来たことが評価されるけど、そうじゃない。原点である見方の情報共有をどうしていくかが大事。</p>
委員	<p>サポートする側も「関わり」という部分に対してサポートしているという意識でいると気持ちがいい。</p>
委員	<p>補助事業には、よくこんなことを思いつくなというのがいっぱいある。そういうものをアオーレに持ってこれる機会を提供している市の活動は評価したい。去年と同じようなことをやろうとしても、ステップアップしているところがあって、成長しているのを感じる。</p> <p>アオーレがあることによって、補助金に申請できるレベルじゃないと思っている人も、「自分たちにもそういうチャンスがあるかも」と思えるいいきっかけの場になっているのではないか。</p>
委員	<p>「どうやって自分ごとと思って頑張る人を増やすか」という議論をしてきて、次の段階で、「どうやってチェックするか」というPDCAサイクルの議論ができると感じた。</p> <p>「共有」という言い方をされていたが、「可視化」かなど。裏でどれだけ苦労しているか、でもそこに関わることはすごく面白い。その喜びみたいところを可視化していくことがすごく大事。</p> <p>面白い動きって、意外と周辺から起こるから、それを絵で見られたらいい。その可視化が「チェック」になって、次の「アクト」につながったら、市民協働という概念がもっと成長していくと思う。</p>

<p>会長</p>	<p>資料4について。</p> <p>この図の主語を、「協働センターが」ではなくて、「行政が」、「市民活動団体が」と読み取っていくと、もう少し組み立てを考えなければならない。協働センターが実施主体になるのは違うと思うし、事業者も加えてほしい。もう一回よく見直していただいて、主体が何で、どう手をつないで、矢印をできるだけ一方向にしないように組み立ててもらいたい。</p> <p>補助制度の次のステージを考えた時に、「事業者さんどんどんおいで」と。ある程度の規制はどうしてもしなきゃいけないけど、応援したいというメッセージは出したい。それが回遊性みたいなものにつながってくれるといいと思う。</p> <p>活発な意見交換ありがとうございました。</p> <p>これで議事を終了いたします。議事の進行にご協力いただきありがとうございました。</p> <p>( 閉 会 )</p>
<p>(出席委員の署名欄) 省略</p>	
<p>9 会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 長岡の市民協働の特長 (参考)“長岡の市民協働の特長”まとめ作業用資料</li> <li>・資料2 アオーレを活用した市民交流事業への取組み</li> <li>・資料3-① 自由で自発的な市民活動に対する支援</li> <li>・資料3-② 市民活動推進事業補助金申請団体の活動性質別分類 (案)</li> <li>・資料4 市民協働の推進概念図</li> </ul>	